

区 長 部

粛々と一若槻地区戦没者追悼式

平成22年度若槻地区戦没者追悼式が6月4日、若槻コミュニティセンターで行われた。午後2時、全員の黙禱。主催のコミわかを代表し轟光昌会長が式辞を述べた。

「追悼のことば」は原田誠之市議と金子宗雄遺族会会長。金子会長は、戦後65年を経て「肉親を失った痛みはなお癒えない。尊い犠牲を無駄にすることのないように」と恒久の平和を訴えた。

今年から追悼式は献花方式に変わった。「G線上のエリア」が流れる中、遺族37人をはじめ150余人がしめやかに献花した。

式は二部構成で行われ、第二部は「追悼演奏会」。若槻文化芸術協議会に加盟する詩吟、舞踊、合唱、太鼓の各団体の演奏が式を盛り上げた。「故郷」は全員の合唱。それぞれの想いをことばに託し、追悼式を閉じた。



しめやかに献花

交通安全部会

高齢者交通安全教室



交通安全の寸劇に笑いも

◁ 5月17日(月)～21日(金)地区内の7ヶ所の会館、公民館において高齢者交通安全教室が開かれ、60歳以上の皆さんが220名、主催者・従事者が93名、合計313名が参加しました。

県交通安全支援センターの方たちの話やビデオ鑑賞、若槻大通り交番の岩佐三広所長の講話、路上講習などがあり、それぞれの地区で笑いを交えて楽しく、和やかに交通安全を学びました。

ビデオ鑑賞では、普段歩いている道にも思わぬ危険が潜んでいることを知り、事故に遭わない工夫を改めて学んだり、夜間、黒っぽい服はドライバーにはどのくらい見えにくいかわ、反射材や反射たすきを付けた場合の効果などを聞きました。

なお、交通安全部会では、4月には各区ごとに春の街頭指導、道路の白線引きを実施しました。

資源活用部会

自然観察会と“きのこ”コマ打ち体験

5月15日(土)新緑の薫る昭和の森公園で自然観察会が行われた。

樹木医、小山明、山本裕美、両先生から、公園内の散策路周辺に植生する草木の名前や見分け方の説明にメモを取る人もおり、身近な自然の息吹を感じながらの楽しい観察会となった。

観察会の後「NPO法人長野市環境緑化協力会」の協力で、しいたけ原木に「きのこのコマ打ち体験」を行い、秋の収穫を楽しみに自分で打ちこんだ原木を抱きかかえて持ち帰った。

参加者の若夫婦から、アパートのベランダで管理するにはどうすれば？との質問もあり、初体験を楽しめたようだった。



▷ 図鑑で説明